



集団指導と個別支援

授業中、学級全体をよく見てみると、このような子どもがいませんか？

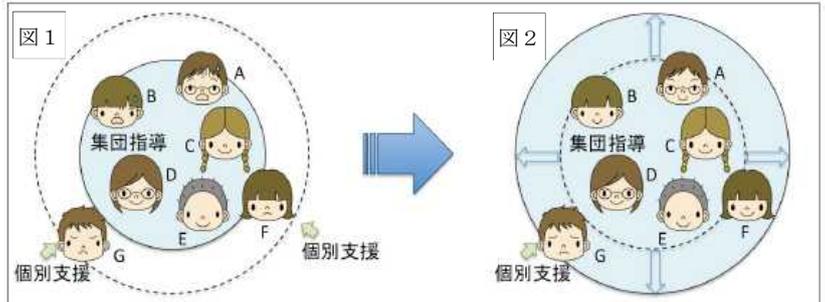


- ◆黙々と課題に取り組んでいるように見えるが、鉛筆が動いていない。
- ◆ノートに何かを書いたら消す、という行動を繰り返している。
- ◆時折、きょろきょろと不安そうに周りの様子を見回している。
- ◆課題を早く終えた後、静かにじっと待っていたり、学習内容とは関係のない話をし始めたりしている。



すべての子どもにとって分かりやすい授業づくりをしましょう

教師の意識が、個別支援の必要性が高い子ども（図1）子ども F、G）ばかりに向いていると、その周りに存在する“実は困っている子ども”（図1）子ども A、B）を置き去りにした授業になりかねません。授業では、つまずきやすい子どもだけでなく、「その他にも困り感をもっている子どもがいるのではないだろうか。」という視点をもって子どもの姿を見取ることが重要です。



『生徒指導リーフ 発達障害と生徒指導 Leaf.3』より
(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成24年2月)



すべての子どもに個別支援で対応するのは容易なことではありません。また、子どもは、友だちとかわり合いながら一緒に学びたい、できるようになりたい、という願いをもっています。授業づくりでは、すべての子どもが授業に参加できる集団指導に基づいた授業（図2）の中で適切な個別支援を行うこと、つまり、**集団指導と個別支援のバランス**が大切です。

授業中の子どもの姿をしっかりと見取りましょう！

計画的・意図的な机間指導をする

何となく子どもたちの様子を見て回っているだけ、「解決できた・できていない」など、子どもの様子をチェックするだけの机間指導になっていませんか？

全体指導の最初に〇〇さんの考えを取り上げよう。

Aの考え方は多数派だから、BやCの考え方をしっかりと考える時間を確保しよう。



◎子どものつまずきやよりよい考えを見付ける。

つまずいている子どもに支援をする、学級全体の解決方法や考えを把握して次の授業展開を組み立てるなど、**机間指導での見取りを次の指導に生かしましょう。**

また、**つまずきや誤答を全体の場で取り上げ、全員で考える機会を設定**することも教師の大切な役目です。一人で解決できた子どもは友だちを納得させる分かりやすい説明をすることで自分の学びを確かにし、友だちと学ぶ合うよさを実感します。つまずきや誤答を大切に授業は、分からないことをそのままにしない、誰もが安心して学ぶことができる風土を育みます。

「すごいね」「よく考えましたね」など、机間指導で漠然とした言葉かけをしていませんか？

〇〇さんは前の時間に学習した□□の考え方を使ったんですね。

どの資料をもとにして考えたのか、友だちにも分かるように書いてみましょう。



◎子どもの考えのよさや優れているところを具体的にほめたり、子どもの思考を促す言葉かけをしたりする。

似たような考え方に分けることができそうですね。グループに名前を付けると、どのような名前になりますか？

自分の考え方のよさを教師に認められた子どもは、自信をもって発表したり、もっとよい考え方や解決方法を見付けようと思ったりします。子どもの反応を予想し、**子どもの学びの質を高める言葉かけ**を準備しておきましょう。

Point

- ◆子どもの姿をしっかりと見取ることができる教師は、**授業中の子どものつぶやきに耳を傾けています。**「分かりやすい説明をしよう。」「〇〇を教えなければいけない。」と思うあまり、教師が一方向的に話しては、話すことに集中し、子どもの姿を見取る余裕がなくなってしまいます。短く簡潔に話すなど、話し方を工夫することとあわせて、子どもの言葉を受け止めることができる心のゆとりをもって授業にのぞみたいものです。



連休明けの学級づくり

「見る 聞く 認める」を大切にした学級づくり

5月のこの時期は、学級づくりが波に乗りはじめ、児童生徒同士のコミュニケーションも活発になり、児童生徒が生き生きと活動する姿が見られる時期です。反面、学級づくりの波に乗り遅れ、クラスの雰囲気になじめなかったり、孤立したりする児童生徒も始まります。いつでも未然防止が基本であることは変わりませんが、連休明けは、多かれ少なかれ何らかの問題が出ることを想定しておき、早期発見・早期対応に備えておくことで安心です。

連休明けの「見る 聞く 認める」の再起動！

連休明けは、児童生徒の生活上の諸問題が起こりやすい時期ですが、その原因としてどのようなことが考えられますか？また、未然防止、早期発見・早期対応のためには、どのような取組が必要ですか？



◇未然防止 早期発見 早期対応 のために

◆連休明けの不応の主な原因

- ・4月に学級のルールが徹底されなかったために、学級集団が規律のない状態になった。
- ・人間関係がうまくいかず孤立感があり、学校に行く意欲が低下した。
- ・勉強したことが定着せず、授業を受けることが苦痛になってきた。
- ・家庭で生活の乱れがあり、連休に昼夜逆転した。
- ・・・など、様々な原因が考えられます。



◆具体的には、どのようなことをすればいいの？

→まずは、児童生徒理解の取組の修正から

たとえば…

学級集団の中で子ども同士の関係性
グループ同士の関係性
グループに所属できない(しない)子どもの様子
グループ間での子どもの移動

アンケートをもとに、学級活動で話し合う

よいこと、心配なことも含めて保護者と話す

に着目し、意図的に話すチャンスをつくります。

部活動の様子を見に行く

教室に早く行く少し遅くまで残る



4月から学級づくりを一生懸命やってきたのになあ。
西部教育局のリーフレットを見て、「見る 聞く 認める」に気をつけてやってきたのだけど…。

連休明けに諸問題が表面に出てくると、児童生徒の実態に合わせて取組を修正することができます。今までのやり方が悪かったのではなく、合わなかったのだと考えて修正することが大切です。その時、同僚や管理職の先生方に相談すると、様々なヒントを聞くことができます。ベテランの先生方の技を聞くよい機会ですので、積極的に相談することをおすすめします。



今まで見ているつもりでもよく見えていなかったのかも知れないね。私は休けい時間に学校を回って、グループ間の関係をよく見えていますよ。グループ内での個々の動きを見ることも大切です。

そうだなあ、みんなうまくいっているようで、結構孤立感を感じている子がいるよ。子ども同士のかかわりができるような活動をするね。その中で認め合うことができるように工夫したいね。



これまでの経験から、子どもと話すきっかけ作りが大切だと思います。自分の場合は、班ノートや日記の中の話から、あらかじめ少し調べてから話を聞くようにしています。

ただ、学校だけでは解決できないこともあるから、早めに学年主任や生徒指導主事(主任)に相談して、場合によっては外部機関と連携する必要もあるわね。

